

意見陳述

控訴人 守屋 敬正

私は控訴人の守屋敬正と申します。ご覧のとおり松葉杖をつけています。70歳を越えてから、そもそもの病歴をさかのぼれば、幼少時の結核が原因で、両下肢とも足の一部を切断せざるを得ませんでした。

地震、原発事故などで避難する事態になったとき、どうにも身動きのとれない人間の一人として途方に暮れるのは目に見える一人です。泊原発に事故が発生し、何らかの緊急事態となり、札幌市内に住んでいても、いざ避難となったとき、少なくとも最低一人か二人は介助してくれる人がいないとだめでしょう。

泊原発をはじめとして、全国各地の原発の再稼働をめぐる議論が渦巻いていますが、それらについての意見は割愛します。

心身の障害をかかえる市民はたくさ



んいます。そういうあらゆる人々を救援、救助できる態勢をふだんから築き上げる仕組みが可能なのでしょうか。

災害大国ともいわれる日本です。合わせて、時代は今や高齢化社会です。災害時に地域で被災者の救助、救援にあたる市民も高齢者です。そういう人たちの存在なしには救援活動も成り立ちません。

泊原発で事故が発生し、住民避難が必要となったとき、バスを借り上げて集団避難するやり方を聞いたことがありません。時間、空間を越えていつでも合理的な避難策なんて、どこにもないでしょう。夏の時期の昼間の事故を想定しても、何十台のバスを借り上げて、それぞれに運転手を配置して、燃料も満タンにして、いっせいに災害地に向かう。なぜか、道路は無事なんですね。バスの運転手不足も話題になっているのに、災害時は充足の計画です。

能登地震を見るまでもなく、災害が起これば、車道は亀裂が入り、土砂の通り道となり、緊急車両、救援車両の走れる場所はないと考えるほうが自然です。想定案は描けても、それが実行できるとは、避難策を練っている人も思っていないでしょう。冬の大雪の時期では、その実現可能性はさらに低下します。

人為的に線引きされた行政単位に自然現象としての地震の被害が収まるものではありません。近隣の自治体から、意見を述べさせて欲しいと注文が出るのも当然です。

2024年正月に発生した能登半島地震は、私たち全国の市民に原発のあり方

にいろいろな問題を提起しました。活断層の隆起は、地層に素人の私でも、その巨大エネルギーと環境の変化を十分に教えてくれました。断層が4メートルも隆起した能登の海岸の映像は、泊原発にあるとはめるとその危険度は素直に理解できるものでした。しかし、原発の審査機関は、これらの事実になぜか素直にならないうです。これらの事実を審査の内容に取り込んで、市民が納得できる検討を重ねるのが、科学者の役割だと思います。

実現性を無視した避難方法で住民の生命、生きる希望をないがしろにするのはもうやめて、これからの地球環境を汚染する道から撤退することこそが求められていると思います。

原発は正常に動いているときも、ここで働く労働者は常に被爆の危険にさらされていることを、別の原発関係の裁判を傍聴して教えられました。常に危険と隣り合わせで健康被害を間違いなく受けている人たちの犠牲のうえに、原発が動いていることは、人間を冒瀆しているとしか言いようがありません。

環境破壊、環境汚染が世界で問題となつています。氷河が溶け出している、密林が加速度的に減少している、洪水が頻発している。地球全体が病んでいる一端は、テレビの信頼できる映像から読み取ることができます。温度上昇にストップをかけることが国際的大事業として提起されています。各国が地球温暖化を止める、遅くするための懸命の努力を重ねています。諸国の努力に比べると日本の

とりくみは弱いと評されています。

今年の夏は全国で「線状降水帯」が襲い、北海道でも発生しました。

地球温暖化に歯止めがかかっていませんから、来年以降もニユースの材料になるでしょう。でも現象を垂れ流すだけの報道では、何の進歩もありません。なぜ、この現象が頻発するののかの科学的報道がなく、市民は成り行き波の上に乗っただけです。

「ファミリーヒストリー」というあるテレビ局の番組があります。登場する人の係累を辿って、それぞれの時代の姿を知る面白味があります。歴史の一端を再学習する機会と言ってもいいでしょう。

でも未来の姿はどうでしょう。未来の自分につながる家族がどうなるかを描ける人は一人としていないでしょう。どこで誰と遭遇して、結婚して、何人の子に恵まれて、100年後、200年後の家族のつながりがどうなるかは誰も描けません。でも、人類という存在が100年後、200年後に存在していることは予測できます。まかり間違つて核戦争という大惨事に人類が迷い込んでいない限りですが。そのまだ見ぬ未来の人たちに、今を生きる私たちが果たす役割は何でしょう。私なりに考えました。人間の手でもうにも扱いようのない事柄については、きれいさっぱり手を引くことではないかと。それが未来の私たちにつながる人々への最大の貢献ではないかと。

以上、意見陳述とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。